

## 福島第一原子力発電所現地確認報告書

### 1 確認日

令和6年6月28日（金）

### 2 確認箇所

- (1) 測定・確認用設備（K4タンクエリア）、移送設備（多核種移送設備建屋）、希釈設備（5, 6号機敷地護岸ヤード）（図1）
- (2) 大型機器点検建屋西側（掘削現場）（図1）

### 3 確認項目

- (1) 多核種除去設備等処理水の放出状況（第7回）
- (2) 所内電源A系停止事象に係る応急対策の状況

### 4 確認結果の概要

- (1) 多核種除去設備等処理水の放出状況（第7回）

本日（6月28日）第7回目の多核種除去設備等処理水（以下「ALPS処理水」という。）の放出が開始されたことから、その状況を確認した。

放出対象：ALPS処理水（測定・確認用サンプルタンクB群） 予定放出量：約7,800 m <sup>3</sup> 予定期間：令和6年6月28日（金）～同年7月16日（火）
--

なお、東京電力は、昨日（6月27日）から海水移送ポンプ2台（A、B）を定格運転している。（写真1）

【前回確認日：令和6年5月17日（第6回放出）】

#### <放出流路構成及び設備の状況>

- ・放出流路構成は、弁の開閉操作が手順書どおりに行われていることを確認した。（写真2）
- ・放出開始後、放出流路の確認が行われ、ポンプや配管等に異常がないことを確認した。（写真3）

- (2) 所内電源A系停止事象に係る応急対策の状況

令和6年4月24日に原子炉注水設備などの重要設備に電源を供給している所内電源A系が停止するトラブルが発生した。本トラブルは、構内配電線の埋設管路の補修に伴う屋外舗装箇所の掘削工事（以下「掘削工事」という。）において、所内電源A系ケーブルを損傷させたことが原因であり、トラブル以降、東京電力では、所内電源B系からの受電に切り替え、設備への電源供給を行っている。

今般、所内電源A系の応急対策が実施され、所内電源A系からの受電が再開されたことから、応急対策の内容について説明を受け、作業点検を行い、安全対策を講じた上で作業が実施されたことを確認した。

また、本トラブルの原因となった、掘削工事現場の現状を確認した。

【前回確認日：令和6年4月25日】

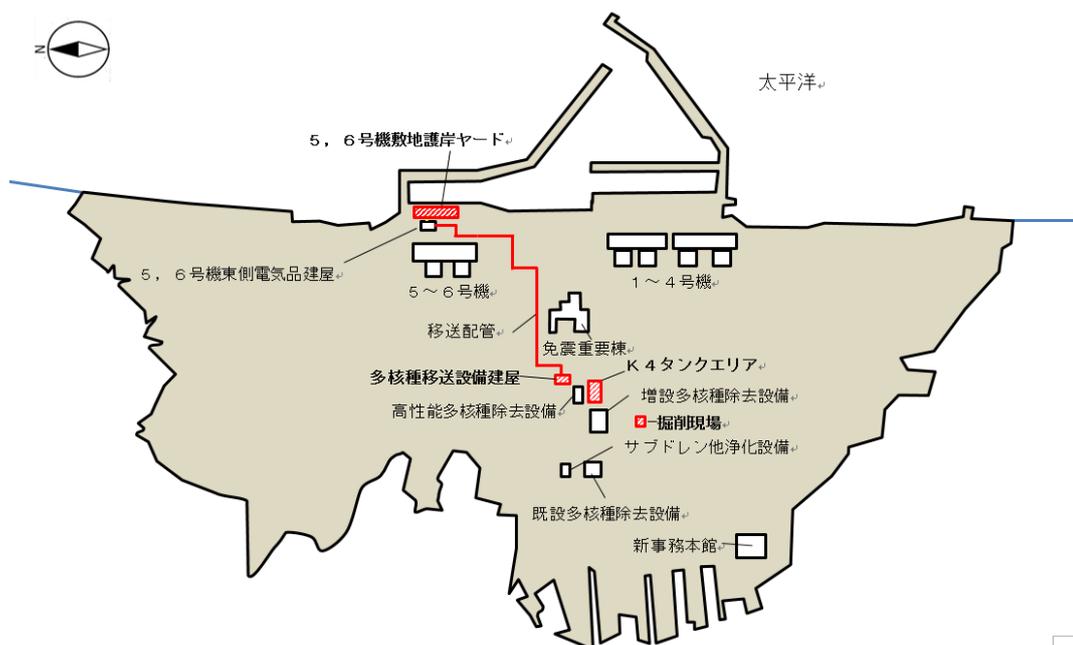
#### <応急対策についての聴取内容>

- ・ 応急対策は、令和6年6月24日から26日にかけて実施された。
- ・ 応急対策の内容は、M/C※2Aと1A間にある3条のケーブルのうち、損傷したケーブル1条を解線（盤からケーブルを引き抜く作業）し、ケーブル2条で復旧したものである。
- ・ 応急対策の実施に当たっては、安全事前評価の中で作業点検を行い、リスク要因を抽出し、現状の防護措置の確認や見直しを行った上で、作業を実施した。

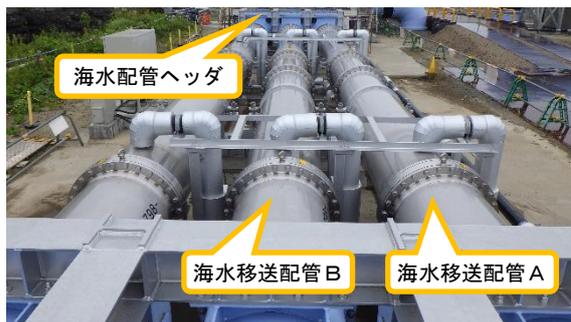
※ M/C（メタクラ） metal clad(メタルクラッド、「装甲開閉装置」)の略。大型で主要な設備に電気を供給するための電源に使われている配電盤の通称であり、高圧の大電流の開閉ができる遮断器を有している。

#### <掘削工事現場の状況について>

- ・ 掘削工事現場に単管バリケードが設置されており、工事関係者以外が立入できないように区画されていた。（写真4）
- ・ 掘削工事現場付近に埋設物の標示が追加で設置されていた。（写真5）



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1)  
海水移送配管等の状況  
(南側から撮影)



(写真2-1)  
測定・確認用サンプルタンクB群の  
連結弁「全開」操作の状況



(写真2-2)  
測定・確認用サンプルタンクB群  
出元弁全開操作後のチェーンロック  
作業(施錠)の状況



(写真3)  
ALPS処理水移送ポンプ(A)の  
確認状況  
(多核種移送設備建屋内の東側から  
撮影)



(写真4-1)  
掘削工事現場の状況（令和6年4月25日）（東側から撮影）



(写真4-2)  
掘削工事現場の状況（令和6年6月28日）（東側から撮影）



(写真4-3)  
掘削工事現場の状況（令和6年6月28日）（西側から撮影）



(写真5)  
追加で設置されていた埋設物の標示

- 5 プラント関連パラメータ確認  
各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。